

梨の芯

金子みすゞ

梨の芯はすてるもの、だから  
芯まで食べる子、けちんぼよ。

梨の芯はすてるもの、だけど  
そこらへんはづる子、ずるい子よ。

梨の芯はすてるもの、だから  
芥箱(ごみばこ)に入れる子、お伶俐よ。

そこらへんはすてた梨の芯、  
蟻がやんやら、ひいてゆく。  
「みすゞちゃん。ありがとう」

芥箱へ入れた梨の芯、  
芥取爺さん、取りに来て、  
だまっつごころひいてゆく。

梨が美味しい季節ですね。

「梨の芯」をテーマに考えるなんて誰ができるのでしょうか。

みすゞさんは…

芯まで食べてるのはけちんぼ？

芯をそこらへんに捨てるのはずるい子？

芯をごみばこにちゃんと捨てるのはお伶俐さん？

そのように言っています。

お伶俐な子が捨てた梨の芯は、ごみを集めるおじいさんがただ集めていきますが、けれども、ずるい子がほおってしまった芯は、蟻にとってみれば、ありがたい存在だとみすゞさんは言っているのです。けちんぼ、ずるい子、お伶俐…いろいろな子…いろいろな子がいますが、みすゞさんにかかると、マイナスに見えることもいいところを見つけて、プラスにかえてくれるのだなあと思います。

優しい眼差しのみすゞさん。

その優しさを飛ばしていけるようにしたいものです。

